



下曽我小学校
学校だより

梅の香

令和7年9月8日
藤本 明美
No.5

ふるさと下曽我を愛する子

夢に向かって挑戦する子

思いやる心を大切にする子

仲間とともに進んで行動する子

*記事の色はめざす子どもの姿に合わせています。

子どもたちの笑顔と元気な声が学校に戻ってきました。今年は44日間という例年より長い夏休みでしたが、大きなけがや事故の報告もなく過ごすことができました。保護者や地域の皆様の見守りのおかげです。ありがとうございました。

9月は、夏休みの生活リズムから「日常」にもどることで、環境の変化による疲れやストレスが出やすい時期です。また、今年は残暑が厳しいとも言われています。心と体の変化を見逃さないように、しっかりと子どもたちを見守ってまいります。ご家庭でお気づきのことやご心配なことがございましたら、遠慮なく担任や学校にご連絡ください。



9月8日

3年生が土用干しを行いました！



これからの行事や活動

○授業参観(9月12日金曜日)

○前期終業式(10月10日金曜日)

○運動会(10月18日土曜日)

- ・8:50開会式～11:50閉会式 の予定
- ・テーマ「団結うめっ子団 フルパワーの運動会」
- ・一人一人が運動することの楽しさを味わいながら積極的に取り組むことができるように、昨年度まで行っていた個人種目(徒競走)を次のように行います。

1、2年生:徒競走(50メートル)

3年生以上:距離や障害の有無を児童が選択

- ・決められたエリアでは、シート・テント・タープ等の設置は可能といたします。ただし、校地内は禁酒禁煙です。マナーを守り子どもたちのがんばりに応援をお願いします。

○6年生議場見学(10月24日金曜日)

○1、2年生校外学習(10月29日水曜日)

(小田原こどもの森公園わんぱくらんど)



○おはなしランプ大型読み聞かせ(図書ボランティア)

(10月31日金曜日1～3年5校時 4～6年6校時)

- ・「むしたちのうんどうかい」(文:得田之久 絵:久住卓也 童心社)を読みます。読み聞かせにご興味がある保護者の皆様のご参観も可能です。2階生活科室で行います。

○小田原市いっせい総合防災訓練

(11月8日土曜日 8:00頃～12:00頃)

- ・学校行事ではありませんが、「もしも…」に備えて「家にいるときに大きな地震がきたらどういうふうに避難すればよいか」を学ぶ良い機会です。(詳しくは自治会の回覧をご覧ください。)

○下曽我レクリエーション(11月15日土曜日 3校時)

- ・「子どもたちのために、子どもたちを楽しませたい」という気持ちから行っているPTA主催のイベントです。毎年、保護者や地域の皆様が趣向を凝らした遊びや製作のブースを作ってください、子どもたちはとても楽しみにしています。
- ・授業参観はありません。17日月曜日が振替休業となります。

○ふるさと探検ウォーク(11月21日金曜日 午前)

- ・郷土を愛する心と助け合いや思いやりの心を育てること、健やかな体をつくることをねらいとして行います。
 - ・曾我氏館跡や宗我神社、二宮尊徳遺髪塚などの10か所をたてわり班で協力して巡ります。約6kmのハイキング。
- 応援の声かけをお願いいたします。



○3、4年生校外学習(キザニア)

(11月25日火曜日)

○6年生校外学習(日本科学未来館、国会議事堂)

(12月1日月曜日)



行事予定はこちらからご確認ください。

◆どうしたら仲良くなれるのかな◆

9月1日の朝会で、絵本「ふたりのももたろう」をもとに、友達との関わり方について話をしました。



作：木戸優起
絵：キタハラケンタ
#たしかに編集部

この絵本には、題名の通り二人のももたろうが登場します。一人は、おじいさんとおばあさんに大切に育てられ、二人を守るために鬼退治に行くももたろうです。もう一人は、それぞれの「すき」を大事にする鬼たちに大切に育てられ、鬼たちと楽しく暮らすももたろうです。

お話の最後で、二人は出会います。「鬼を退治しよう」と考えるももたろうと「鬼が大好き。」と考えるももたろう。同じ時に同じように桃から生まれた二人ですが、考え方は全く違います。二人が仲良くなるには、どうしたらよいのでしょうか。

子どもたちは、ももたろうたちと似たような経験を学校生活の中で繰り返しています。自分と相手の正しいと思うことが違ったり、感じ方が違ったりすることで、友達と言い争いになることもあります。小学生は、相手と自分の考え方がそれぞれ違うということを理解するようになり、相手を尊重できるようになる時期と言われています。しかし、ある日突然できるようになるわけではありません。様々な人と関わる中で少しずつ学んでいきます。

朝会では、「ももたろうたちは話し合えばよいと思う。」という意見が、子どもたちから出ました。学校生活が始まりました。様々な活動の中で「相手を理解すること」「相手の立場になって考えること」を子どもたちに伝えていきたいと思います。

「多様性を認め相手のことを理解しようとする。一人一人が相手の考えに寄り添い、相手のことを理解しようとする。一人一人が相手の考えに寄り添い、思いやりの心で話し合うことができれば、傷つき、悲しい思いをする人がいなくなるはずです。」

ももたろうの話とあわせて、高学年向けに広島の平和記念式典で子ども代表が述べた「平和への誓い」の一部も紹介しました。



◆インクルーシブな学校教育を考える◆

最近いろいろなところで目にするようになった「インクルーシブ」という言葉をご存じですか。これは、本校の学校グランドデザインに入っている言葉でもあります。8月27日、神奈川県教育委員会から講師を招き、全教職員でインクルーシブ教育の理解を深め、本校の教育活動を見直す研修を行いました。

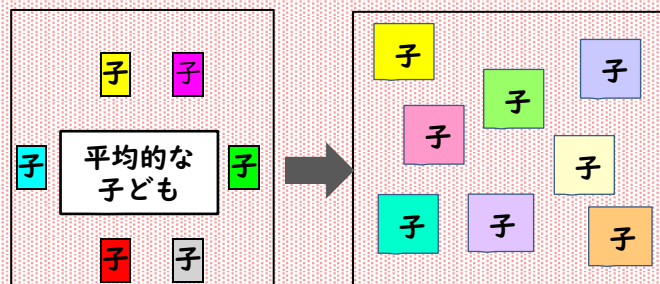
インクルーシブ教育の推進って？

支援教育の理念のもと、共生社会の実現に向け、すべての子どもが同じ場でともに育つことをめざしています。

*支援教育……「すべての子どもたちを対象に、一人一人の教育的ニーズに適切に対応していくことを学校教育の根幹に据える」という教育理念

見方をチェンジ!

「多様性を受け入れる」という意識から、「一人一人が多様性の一部である」という意識へのチェンジ!



一人一人が大切にされ自分らしく過ごせる学校へ

研修の中では、「インクルージョンレンズ」の話もありました。これは、学校で起きる問題の着眼点を「子どもがもっている個人の問題」から「子どもを取り巻く環境の問題」に変えていくという考え方です。

インクルーシブ教育を進めていくには、これまでの学校の当たり前を見直していく必要があります。学習内容や学習形態、学習の場の多様性、ICTの有効的な活用、教職員がチームで行う指導や支援など、子どもを取り巻く環境を今一度見直し、できることを探していきたいと思います。

子ども同士の関係づくりを大切にしながら、133人が自分らしく過ごし、ともに学び育つ学校づくりに努めてまいります。



https://www.ed.city.odawara.kanagawa.jp/shimosoga_s



学校 HP もご覧ください。